

JICA 関係者限定資料

ルーマニア

任国情報

JICA LIBRARY

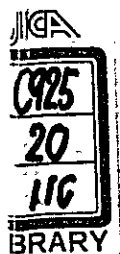


J 1144419[7]

1998年

国際協力事業団

国際協力総合研修所



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家などのJICA関係者に、赴任国での生活上必要な情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様から多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解ではないことを付記いたします。

平成10年8月

国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1144419 [7]

目次

I	概況	i
II	生活事情	1
1.	食生活	1
2.	衣料	5
3.	住宅	7
4.	医療	10
5.	教育	14
6.	家庭の使用人	18
7.	交通事情	21
8.	通信	24
9.	マスコミ	26
10.	教養、娯楽、趣味、スポーツ	28
11.	その他のサービス	33
12.	観光	35
13.	治安、緊急時の心得	37
14.	出入国手続および帰国手続	40
15.	私財の輸送、引き取り、購入	42
16.	社交	44
17.	任国官公庁	45
18.	在外日本関係機関など	46
19.	地方都市	46

I 概況

表-1：ルーマニア概況

正式国名	(和文) ルーマニア (英文) Romania
独立年月日 旧宗主国	1877年5月9日 トルコ
政 体	共和制、議会制立憲国
元首の名称	エミル・コンスタンチネスク大統領・国家評議会議長 (1996年11月選出、任期4年)
位置・面積	北緯43～48度 東経20～29度 238 千平方キロメートル (注1)
首 都	ブカレスト (Bucharest)
総人口	2268万人 (95年)
民族等	ルーマニア人 89.1%、マジャール人 7.8%、ドイツ人 1.5%、 セルビア人 0.15%
公用語	ルーマニア語
宗 教	ルーマニア正教 80%以上、カトリック 6%、他
暦	<日本との時差> -7時間 <祝祭日> (1997年) (注2) 1月1、2日 新年 3月31日 イースター・マンデー 5月1、2日 メーデー 12月1日 ルーマニア統一記念日 12月25日 クリスマス

出所 (注1) World Development Report 1996 The World Bank

(注2) The Europa World Yearbook 1996 Europa Publications

1. 国土の概要

欧州南東部のバルカン半島に位置し、北はウクライナとモルドバ、西はユーゴスラヴィアとハンガリー、南はブルガリアと国境を接し、東は黒海に面している。北緯 43～48 度、東経 20～29 度に位置し、面積は 238 千平方キロメートルである。国の中央部にカルパチア山脈が連なり、その北西部は主に山地、南部はなだらかな平野及び丘陵地帯を形成している。山地が国土の 34%、標高 200～600 メートルの丘陵地が 35%、平野部が 31%となっている。南部ブルガリアとの国境をダニユーブ河が流れ、4,470 平方キロメートルのデルタを形成して黒海に注いでいる（数値は世界の動き社資料、1986）。

（参考文献）

【海外生活の手引き ソ連・東欧編】 1986 世界の動き社

2. 気候

温帯性気候と大陸性気候が混在する典型的な中部ヨーロッパ型気候である。年平均気温は北部で 8℃、南部で 11℃である。最も暑い月は 7 月で平均気温 23℃、最も寒い月は 1 月で平均気温 -3.1℃である。年平均雨量は約 700 ミリメートルである（数値は世界の動き社資料、1986）。

（参考文献）

【海外生活の手引き ソ連・東欧編】 1986 世界の動き社

3. 人口

1995 年の人口は 2268 万人である。

主要都市人口は推定で、首都ブカレスト 234 万人、コンスタンツァ 35 万人、イヤシ 34 万人、ティミショアラ 33 万人である（数値は外務省資料、1997）。

（参考文献）

World Development Report 1995 The World Bank

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

4. 略史

表-2：ルーマニア略年表

年	出来事
106年	ローマ帝国による征服
271年	ローマ軍撤退、以降異民族の侵入や支配が続く
1861年	ワラキア公国とモルドバ公国がトルコ支配下からルーマニアとなる
1877年	トルコから独立し、ルーマニア国となる
1881年	ルーマニア王国成立
1918年	大ルーマニア王国成立
1940年	領土の一部を旧ソ連及びハンガリーに割譲
1947年	王制廃止、人民共和国成立
1965年	新憲法発布で社会主義国成立
1974年	チャウシェスク、大統領に就任
1989年	チャウシェスク政権崩壊、チャウシェスク夫妻処刑される 国名をルーマニアに改称
1990年	自由選挙が実施され救国戦線評議会が圧勝、複数政党制導入 イオン・イリエスク、大統領に就任、ペトレ・ロマン首相に就任
1991年	ストロージャン首相に就任
1992年	イリエスク大統領が再選、民主救国戦線が上下両院で第1党の座を確保
11月	バカロイウ首相就任、バカロイウ内閣発足
1993年	バカロイウ首相が「経済改革計画」を発表
1994年 8月	内閣一部改造
1995年 1月	連立与党P S D R、P R N Uと政府支持党S L P、G R Pが協力条約議定書に調印

出所 「ルーマニア概観」 1992 外務省
「国際情報大辞典」 1992 学習研究社
「世界年鑑」 1995 共同通信社
The World Almanac 1992 Newspaper Enterprise Associates
Country Report:Romania 1st quarter 1995 EIU

5. 民族等

全人口の約90%がルーマニア人であり、各種遊牧異民族の侵入、400年間のトルコの間接統治などにも拘らず、他民族との大規模な混血は行われなかった。ルーマニア人以外では、マジヤール人7.8%、ドイツ人1.5%、セルビア人0.15%などである。特にトランシルバニアは1918年までハンガリー領土であったため、マジヤール人が多く在住し独自の文化を持っている。

(参考文献)

『海外生活の手引き ソ連・東欧編』 1986 世界の動き社
『国際情報大辞典』 1992 学習研究社

6. 言語

ルーマニア語はラテン系言語で、フランス語やイタリア語、スペイン語などと姉妹関係にある。全人口の90%を占めるルーマニア人はルーマニア語を使用しているが、ハンガリーとの国境近辺ではハンガリー語が使用されている。

(参考文献)

『国際情報大辞典』 1992 学習研究社

7. 宗教

国民の約80%以上がギリシア正教の分派であるルーマニア正教に属している。ルーマニア正教徒のほとんどはルーマニア人で、少数民族にカトリック(6%)が多く、ハンガリー人、ドイツ人にプロテスタントが多い(表-1参照)。ルーマニア正教は1865年にコンスタンチノーブル総主教会から独立し、1925年には総主教区の地位を得て完全に独立した。ルーマニア正教は、カトリック教会と異なり自国のもの以外に上部教会を持たない。

1992年現在、ルーマニア正教の最高位聖職者は、テオクティスト・アラパシュ総主教である。政府は90年1月、カトリック教会の一部教区廃止と東方帰一教会のルーマニア正教への強制編入を決めた48年の制令を廃止し、90年4月東方帰一教会を合法化。これを受け、同5月15日バチカンとの国交を復活した。

(参考文献)

『国際情報大辞典』 1992 学習研究社

『世界年鑑』 1995 共同通信社

8. 文化

ラテン語の影響を受けたルーマニア語とギリシア系の東方正教であるルーマニア正教の結合が独特のルーマニア文化を生んだ。

ルーマニア文学は民衆の間に伝わる口承文芸が源となっており、農民生活に密着した物語詩バラダ、叙情詩のドイナ、冬の祭りのコリンダ等があり、庶民文化に深く根ざしている。美術はビザンチン文化の影響を色濃く受け、「ビザンツの後のビザンツ」と言われるほど高い評価を受けている。音楽もルーマニア文化を背景に多彩な民族音楽を生み出している。

今も中世の城が多く残されており、特に怪奇小説のモデルとなったドラキュラ伯爵(ブラド公)が再建し、居住していたポエナリ城が有名である。

(参考文献)

『国際情報大辞典』 1992 学習研究社

9. マス・メディア

1) 新聞

新聞等の出版物は地域的性格が強い。1994年で97の日刊紙が発行されている。90年7月、文化省は検閲を廃止したが、印刷、配布費用の高騰から多くが廃刊を余儀なくされている（数値はWEIS資料、1996）。

1989年の政変後、いずれも独立系となった。主要な新聞としては、Adevarule（発行部数：10万部）、Evenimentul Zilei（発行部数：45万部）、Gazeta Sporturilor（発行部数：15万部）などがある（数値はEuropa Publications資料、1995）。

（参考文献）

『開発途上国別経済協力シリーズ：ルーマニア』初版 1994 国際協力推進協会
The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications
『世界年鑑』 1995 共同通信社

2) 放送

1992年現在、国内で約460万人のラジオ受信者、約460万人のテレビ受信者がいる。ルーマニア初の地域向けテレビ局はティミショアラにおいて1989年12月に認可された。衛星放送は94年から開始された（数値はEuropa Publications資料、1995）。

（参考文献）

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

表-3：経済指標 [ルーマニア]

主要経済指標 の推移		(1992)	(1993)	(1994)
GDP (10億レイ)	(注1)	5,982.3	18,835.2	N.A.
一人当たりGNP (ドル)	(注2)	1,130	1,140	1,270
実質GDP成長率 (%)	(注1)	-13.5	N.A.	N.A.
消費者物価上昇率 (%)	(注1)	211.2	255.2	136.8
失業率*1 (%)	(注3)	8.4	10.2	N.A.
貿易収支 (百万ドル)		-1,194	-1,128	-330
輸出額(fob)		4,364	4,892	5,998
輸入額(fob)	(注1)	5,558	6,020	6,328
主要輸出入相手国	(注4)	輸出 (1994年)	ドイツ (15.9%)	
		輸入 (1994年)	ドイツ (19.2%)	
経常収支 (百万ドル)	(注1)	-1,506	-1,162	-259
対外債務残高 (百万ドル)	(注5)	3,128	4,249	5,492
債務返済比率 (%)	(注5)	8.7	5.6	7.9
外貨準備高 (百万ドル)	(注2)	1,595	1,921	3,092
通貨 (1998年8月6日)	通貨単位：レイ (Lei)	1ドル=8,700.00レイ		
会計年度	1月1日~12月31日			

注) *1：毎年12月の数値。

出所 (注1) International Financial Statistics Yearbook 1995 IMF

(注2) World Development Report 1994-1996 The World Bank

(注3) Year Book of Labour Statistics 1995 ILO

(注4) Country Report:Rumania 1st quarter 1996 EIU

(注5) World Debt Tables 1996 1996 The World Bank

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

農業・畜産国であるため、基本的な食料品は容易に入手することができる。

食料品の極端な不足が報道されたことは記憶に新しいが、年々、状況はよくなっている。

(2) 主な食料の出回り状況

野菜……年間をとおして少ない。レタス、サラダ菜、キャベツ、ほうれん草、チコリ、セロリ、ネギ、トマト、キュウリ、ピーマン、アスパラ、ハーブ、白菜、大根などがある。概して品質は悪く冬には極端に少なくなるが、状況は徐々に改善されつつある。

魚類……サバ、タラ、サケ、タコ、イカなどの冷凍品があるが、冷凍技術は安定していないようである。缶詰めや薫製品もある。鮮魚はコイ、フナ、ナマズ、川スズキ、ニジマスなどの川魚である。

果物……年間をとおして、柑橘類、バナナ、メロン、キウイフルーツなどの輸入果物がある。季節の果物としてサクランボ、プラム、スイカ、メロン、リンゴ、ナシ、ブドウが出回るが、概して品質はよくない。

米……当地で栽培された米が市場にあるが、味は邦人好みではない。邦人の多くは韓国系の業者からカリフォルニア米を購入している。

飲料水……容易に入手できる。ヨーロッパ製、ルーマニア製、ガス入り、ガスなしと種類は豊富であり、値段の幅も広い。

その他……ワインとヒマワリ油の大生産国である。ハチミツも豊富にまわっている。

(3) 食料の入手

市場がある。野菜、果物、雑貨などは屋外の露天で売られており、それを取り囲む形で、肉、パン、魚、玉子、酒、花、雑貨などの専門店、スーパーマーケット、レストランなどがある。殆どの買い物はそこで済ませることができる。邦人がよく利用する市場は次のとおりである。

アムゼイ (Piata Amzei)

所在地： Str. Piata Amzei 10-13

ドロバンチ (Piata Dorobanti)

所在地： Str. Beller No.3

西欧式のスーパーマーケットが増えており、格段に買い物がしやすくなっている。とくにMETROは豊富な品揃えであり、冬でも数種類の野菜を入手することができる。

MARIOT

所在地： Bd. Nicolae Titulescu 95-103

電話： 618-4788

UNIC

所在地：Bd. Nicolae Balcescu 33

電話：615-1896

MEGA IMAGE

所在地：Stefan Cel Mare 226

電話：210-4007

RAINBOW

所在地：Str. Piata Amzei 10-22

電話：659-4015

LA FOURMIE

所在地：Bd. 1 Mai 58

電話：665-3744

VOX MARIS

所在地：Str. George Enescu 36

電話：659-4005

METRO

所在地：Militari District & Otopeni Airport

日本食品や調味料を入手することはできないため、赴任時に多目に持参すること。また、他のヨーロッパの都市にでかけた際に日本食材店で補給したり、一時帰国時に買い足すとよい。通信販売で購入することもできる。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

大抵の調理器具や電化製品は容易に購入することができる。電化製品は、ヨーロッパ製、日本製、韓国製と豊富にある。鍋、フライパン、西洋式の食器類も手に入る。

食器類、調理器具、電化製品は、前項のスーパーマーケットで購入することができる。とくに最近2店目が開店したMETROは、巨大なスーパーマーケットであり、電化製品、衣料、雑貨、酒、飲料水、事務用機器、食料品などと品揃えが豊富である。その他、下記のデパートでも購入することができる。

台所用の洗剤や台所用などの小物も、特殊な物以外は購入することができる。なお、冬でも室内が暖かいのでゴキブリがいる。ゴキブリホイホイに類似した製品や、電気蚊取り器やベープマットもある。

ユニレア (UNIREA)所在地：Piata Uniri 1

ブクルオボール (BUCUR OBOR)所在地：Sos. Colentinei 2-6

ビクトリア (VICTORIA)所在地：Calea Victoriei 17

ココル (COCOR)所在地：I.C. Bratianu Blvd 33

ブカレスト (BUCURESTI)所在地：Str. Lispcani

(2) 日本から持参した方がよい食器、調理器具など

電圧は220Vであり、この電圧と差し込みに合う炊飯器が必要である。秋葉原の電気街に行くと対応してくれる。その他、手に馴染みやすい包丁、日本独特の食器、はし、調味料入れ、小物などは持参した方がよい。

1-3 外食

(1) 飲食店

ホテルのカウンターなどにある情報誌「BUCURESTI」には、レストランの案内が掲載されている。ルーマニア料理、西洋料理、フランス料理、イタリア料理、インド料理、スペイン料理、トルコ料理、アラブ料理、中華料理、韓国料理店などがあるが、日本料理店はない。その他、マクドナルド（マゲル通り、その他多数）、ケンタッキーフライドチキン（マゲル通り）、ピザハット（ドロバンチホテル側）もある。

通常、料金にはサービス料が含まれているが、外国人が利用するレストランでは料金の5%程度のチップを払うことが習慣となっている。

バラダ (Balada)

所在地：Blvd.N. Balcescu 4（インターコンチネンタルホテルの21階）

電話：614-0400

備考：西欧化したルーマニア料理のレストラン。風景を楽しみながら食事ができる。

マドリガル (Madrigal)

所在地：Blvd.N. Balcescu 4（インターコンチネンタルホテルの1階）

電話：614-0400

備考：比較的豪華な内装のレストラン。手軽に食事をするができる。

マック・モニス (Mc Monis)

所在地：Blvd.Marasti 39

電話：222-9105

備考：中心部から少し離れた場所。西欧化したルーマニア料理のレストラン。

カプシャ (Casa Capsa)

所在地：Str.Edgar Quinet 1

電話：615-6101

備考：19世紀に開店した伝統あるルーマニア料理店。戦前には多くの文化人や芸術家が集まったといわれている。

ペスカルシュ (Pescarus)

所在地：Herastrau Lake

電話：679-4640

備考：ヘラストラウ湖畔にあるルーマニア料理店。湖を一望のもとに食事ができる。

ドイココシ (Doi Cocosi)

所在地：Sos.Bucuresti-Tirgovisti 6

電話：667-1998

備考：中心から15km程離れた郊外にある鶏料理専門の田舎風のレストラン。

ドイナ (Casa Doina)

所在地：Sos.Kiseleff 4（キセレフ公園の中）

電話：222-3179

備考：西欧化したルーマニア料理。敷地が広く夏は屋外で食事を楽しめる。

ベルベット (Velvet)

所在地：Str.Voda 4

電 話：615-9241

備 考：美しいレストランであり、西欧の雰囲気です食事がすることができる。

ラ・プレミエラ (La Premiera)

所在地：Str.Tudor Arghezi 16

電 話：312-4397

備 考：西欧化したルーマニア料理。大使館関係者やビジネスマンが多く利用。

カフェ・デ・パリ (Cafe de Paris)

所在地：Str.Jean-Louis Calderon 33

電 話：312-7013

備 考：ロンドン、パリ、ニューヨークなどにあるフランス料理のチェーン店。

ダビンチ (Da Vinci)

所在地：Str.Ion Campineanu 11

電 話：312-2494

備 考：イタリア料理の専門店。新しく雰囲気がよい。

カプリチオ (Capriccio)

所在地：Str.Icoanei 18-20

電 話：211-5308

備 考：イタリア料理店。

アクアリウム (Aquarium)

所在地：Str.Alecu Tussor 4

電 話：211-2820

備 考：イタリア料理店。何時も賑わっている。

カサ・ベツェ (Casa Veche)

所在地：Str.George Enescu 15-17

電 話：615-7897

備 考：ピザ専門店。階下はケーキ店。夏には戸外で食事を楽しむことができる。

コリアン・ハウス

所在地：Str.Cimpina 53

電 話：666-5283

備 考：家庭的な雰囲気の韓国料理店。それ程辛くはない。

長城飯店

所在地：Str.Vasile Lascar 189

電 話：211-7250

備 考：中華料理店が市内に 10 軒以上ある中で、値段が手頃で味も良い。

(2) その他の飲食店

ブカレスト市内にはパブが数多くあり、地元の人々がビールを楽しんでいる。バー、ナイトクラブ、ディスコなどは、情報誌「BUCURESTI」に掲載されている。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

日本の四季の衣料で対応することができる。中央ヨーロッパ特有の温暖な移動性大陸気候帯に属しており、冬季と夏季の全国の平均気温は、それぞれ -3°C と $22\sim 24^{\circ}\text{C}$ である。ただし北と南では 3°C の温度差があり、平野部と山岳地帯では $5\sim 10^{\circ}\text{C}$ の温度差がある。

年間の平均降水量は 637mm である。山岳地帯では $1,000\text{mm}$ を越えるが、ベレガン平野では 500mm であり、ダブルジャとドナウデルタでは 400mm である。湿度が低く、年間をとおして乾燥している。

各月の平均気温は次のとおりである。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
℃	-2.4	-0.3	5.2	11.6	16.9	20.6	22.8	22.3	17.8	11.8	5.5	-0.4

春と秋は短く、大幅な温度変化を伴う。夏は 30°C を越える日が多く、半袖シャツや短パンが必要である。

冬は寒い（ブカレストは降雪量は少ないが、池や湖は結氷する）が、一般に住宅の暖房設備は整っており、窓は2重で機密性が高いため、薄手のTシャツやトレーナーなどで十分である。夜も毛布1～2枚で十分であり、掛布などの寝具は容易に購入することができる。屋内と屋外の温度差は厚手の防寒着と重ね着で調節する。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

下着や靴下、ワイシャツ類は品質やサイズが邦人に合わない場合も多いため、買い足してでも持参した方がよい。手袋やマフラーも必要である。

紳士服、婦人服、子供服などの既製服もサイズや好み合わない場合が多いので必要に応じて持参するとよい。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

輸入品や毛皮製品、皮革製品が数多く出回っている。防寒着や防寒靴も豊富である。

(4) その他の留意点

既製品を購入した場合、サイズ直しは購入した店ではできない。購入後に仕立て店に持っていくことになる。

2-2 礼装

(1) パーティー

地元の人を自宅に呼んだり、呼ばれたりという機会は少ない。レストランで会食することが多いが、公的な席では背広や少し改まった服装で対処している。

日本人会の会合やパーティーでは、その趣旨に合わせた服装で参加している。

(2) 式典

現在のところルーマニアの祝祭日に招待されることはない。

JICA 専門家とその配偶者は、天皇誕生日、新年会などの機会に大使公邸に招待されることがある。ダークスーツなど少し改まった服装で対処している。

ルーマニア社会では誕生パーティーが特別な意味を持っている。誕生日を迎えた人

自身が料理と飲み物を用意し、お客を招待する。職場でも招待を受ける機会があり、その場合は執務中の服装で参加している。

(3) 冠婚葬祭

該当情報なし。

(4) その他の留意点

それぞれの季節に応じたダークスーツや改まった婦人服を持参するとよい。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店と取り次ぎ店がある。取り次ぎ店では仕上がりまで1週間程度かかるが、クリーニング店では2、3日で仕上がる。ドライクリーニングも可能である。しかし、和服やシルクなどの高級品やデリケートな物は避けた方がよい。

電気洗濯機、アイロン、アイロン台、洗剤は豊富にあり、容易に入手できる。

一般に、家具付きの住宅では全自動式の電気洗濯機が装備されている。

(2) 仕立て、修繕

仕立て店は多い。西側と比較して仕上がりが劣るといわれているが、好みの問題である。服地は専門店で購入し、仕立て店に持ち込むことになる。

(3) 保管

湿度が低く乾燥しているため、衣料品の保管には特に問題はない。

3. 住宅

3-1 住宅事情

外国人が入居できる住宅の家賃は年々値上がりしているが、現在のところは JICA 住宅手当での限度額で納まる程度であり、それを大幅に越えることはない。

3-2 ホテル事情

ブカレストの中心地であるマゲル通りと勝利通り沿いに多くのホテルがある。一般に、施設やサービス内容は（星の数ほど）期待できないことが多く、料金は割高である。ドル現金払いが一般的であるが、カードによる支払いが可能なホテルもある。

1997年4月現在の料金（すべてUSドル）は次のとおりである。

ホテル	電話	シングル料金	ダブル料金
インターコンチネンタル	210-7330	241	258
リド	614-4939	220	240
* コンチネンタル	312-0136	150	190
* ブカレスト	312-7070	150	180
* ミネルバ	650-6010	101	134
ドロバンチ	211-5450	100	125
アンバサダー	615-9080	75	118

* JICA 専門家がよく利用するホテル。

上記のブカレストホテルには長期滞在者用のアパートメントがあり、ホテルの料金と比較してかなり割安である。部屋はゆったりとしており、リビングルームと独立した台所が付いている。また、最小限度の調理器具と食器類が整っている。大半の人が赴任当初はこれを利用しており、長期滞在している邦人もいる。

3-3 住宅の探し方

1989年の革命後、雨後のタケノコのように不動産業者が増えている。不動産業者はマゲル通りや勝利通りの周辺に多く、外に物件広告を出している。ホテルのカウンターなどで入手できる情報誌「BUCURESTI」には、不動産業者の広告が掲載されている。まずは何軒かを訪ねて、英語が通じ、かつ相性の合う業者を探し出すことである。形態（アパート、独立家屋など）、部屋の数、地区などの希望を伝えておけば、家主立ち会いの下、該当する物件を紹介してくれる。

地元の新聞にも物件広告が掲載されている。該当する電話番号に連絡すると物件を紹介してくれる。家賃がドルで記載されているものもあり、参考になるとよい。

3-4 住宅の選定上の留意点

特に留意すべきは、地区、物件（形態、設備、間取り）、家主、の3点である。ただし3点全てが満たされることは希であり、各々の優先順位で折り合いをつけることになる。

地区……邦人の住む地区は3～4ヶ所に限定されており、その地区の物件が無難である。その中には緑が多く環境の良い地区、中心部に近く交通の便の良い地区もある。なお、学齢期の子供のいる家庭では、学校との位置関係を考慮する必要がある。

物件……ブカレストの住宅は、ピラと呼ばれる独立家屋、古いアパート、新しい

アパートに分類することができる。一般に、アパートの出入り口にはセキュリティーの設備があるが、中には機能していないものがある。エレベーターは狭く、他人と乗り合わせるには気兼ねすることが多い。古いアパートではエレベーターが途中で止まる危険性がある。

家具付き物件では生活に必要な家具と電化製品のほとんどが揃っている。また、電話が付き、ケーブルテレビと契約しているところが多い。新規に電話回線をひくには煩雑な手続きがあるため、既に電話のあることが重要である。家具付きの場合は、家主立ち会いの下、実際に家具を確認した方がよい。

車を所有する場合は、専用の駐車場あるいは車庫の有無を確認すること。一時帰国や旅行などで長期間留守にする間、安全に車を保管しておく場所が必要である。

冬の寒さを考慮して、窓は2重になっているか、機密性があるか、などの確認が必要である。

ドアには、インターホン、錠前、アイスコープ、ドアチェーン、かんぬき錠、呼び鈴などが必要であり、その有無を確認すること。

間取りは部屋数の多いものから、ワンルームまで幅広くある。

3-5 住宅の契約

家主には、家賃収入に対して納税の義務が生じるため、ルーマニア語による正式な契約書を作成して地区の役所に届けなければならない。この契約書は、家主と借り手の双方が所持する。身分証明書の取得やビザの延長、車の登録などには、この契約書の写しが必要になるため、安全に保管しておくこと。同時に英語の契約書も作成し、双方で保管する。

契約期間は家主との協議により、1～2年間となる。契約時に3～6ヶ月間の家賃を前納することになるが、これも家主との協議によって決まる。

不動産業者には、手数料として家賃1ヶ月分の50～100%を支払う。これも不動産業者との協議により決まる。

契約期間満了の30日前までには、契約の更新や家賃について話し合う必要がある。

家具付きの場合は、家賃に家具の使用料も含まれているのが一般的であるが、確認すること。また、修理すべき個所を明確にし、その費用の負担者を決めておく必要がある。家賃の支払いは、家主が集金にくるのが一般的である。

アパートでは、家賃の他に管理費などが必要である。管理費は管理人に支払う。管理費にはガス、上下水道、温水、暖房、ゴミ処理、公共の場の電気代が含まれている。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

契約時に確認するべきであるが、電気、ガス、水道などは、特に借り手が手続きする必要はなく、入居後即使える場合が多い。電気代は2ヶ月に1回程度直接徴収にくる。電話代は1ヶ月に1度請求書が送られてくる。その請求書を持参して電話局に向いて支払う。ピラは1階と2階が独立しているが、同じ建物に家主が住んでいれば、これらの支払いを代行してくれることがある。

3-7 その他

ブカレストの冬は寒いので、とくに、暖房設備の機能を確認する必要がある。暖房システムには部屋ごとの個別暖房、一戸ごとの集中暖房、地域暖房がある。また、二通りの暖房方法を備えたものもある。

風呂の給湯方式も確認する必要がある。電気式の給湯器を備えたところもある。温度と給湯量は給湯器の容量により決まる。集中暖房のアパートでは、蛇口をひねれば湯がでる方式が多い。ただし、給湯時間が制限されている場合がある。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

入国に当たって特に定められた予防接種はないが、当地ではA型肝炎、B型肝炎が多く、この2種のワクチンと破傷風ワクチンは赴任前に接種を受けることが望ましい。また、野良犬や放し飼いになっている犬が多いため、狂犬病の予防接種も受けておくと安心である。しかしながら、派遣が決定してから出発までの期間に余裕がなく、3回目の接種が間に合わない場合も多い。その際はワクチンを日本から運ぶ必要がある（JICA 健康管理室に相談のこと）。また、狂犬病は予防接種をしたから絶対に安心であるとはいえないため、犬に咬まれた際は JICA 事務所か大使館に相談すること。当地の病院にはワクチン（予防用と同じ）はない。

(2) その他の準備

検眼技術などを米国やドイツと提携したクリニックがあり、最新の技術でコンタクトレンズなどが入手できるが、輸入品であるため1ヶ月以上を要する。なお、日本から持ってきた眼鏡をもとに乱視用の眼鏡を安く複製した人もいる。

歯科治療については、邦人の間で評判のよい歯科医もおり対応は可能である。しかし、出発前に日本で治療を済ませるのが無難である。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

一般に電話で予約をしてから受診する。初診料、診察料は治療終了時に現地通貨もしくは米ドルで支払う。領収書を必ず受取り保険求償などを行うこと。ブカレストの主な医療機関は次のとおりである。

Spital Urgenta (スピタル・ウルジェンタ、救急病院)

電話：1-212-2312, 1-212-0107

所在地：Callea Floresasca no.8, Bucharest Romania

備考：西欧先進国および日本でトレーニングを受けた医師がいる。形成外科、一般外科などの技術水準は高い。

The Medical Center for Diagnosi and Outpatient's Treatment(エリアス・ポリクリニック、外来専門病院、外交官病院)

電話：1-212-0402 (emergency), 1-212-2980

所在地：Str. Washington no.8-10, Bucharest, Romania

備考：通称 Elias Polyclinic。外来のみ。軍、政府関係者、外交団が対象。歯科もある。事前に受診カードを申請しておく必要がある。一般邦人の受診は要交渉。

“Maria Skoldowska Curie” Children’s Hospital(エム・エス・キュリ・ホスピタル、小児病院)

電話：1-682-4160, 1-682-4149, 1-682-4152

所在地：Boulevard, C.Branciveane, 20, Bucharest, Romania

備考：画像診断装置、院内LAN, 生化学検査装置などの設備はかなり充実している。14名の医師、看護婦が米国での教育訓練を修了している。専門診療科制度をとっている。

Institute for Mother and Child “Emilia Irza” (小児病院)

電話：1-240-9040, 1-240-9180, 1-240-9440

所在地：Bivd.Lacul Tei No.4, Bucharest, Romania

備考：日本留学経験のある医師がいる。研究、教育、診察を担う。英語を解する医師が多い。

American Dental Clinic (歯科医院)

電話：1-212-2608, 1-212-2826

所在地：Str.Varsoviei No.4, Bucharest, Romania

備考：土曜日受診可能。英語が通じる。

地方における医療情報はかなり少ない。地方の都市には必ず COUNTRY HOSPITAL がある。狂犬病などのワクチンの入手は困難と見受けられる。

(2) 緊急時の対応と措置

961に電話すると厚生省の下部機関から公営救急車が来る。この救急車に医師の付き添いはない。ほかには次のような民間救急車派遣会社がある。

Puls Ambulance Service (Bucharest)

電話：1-629-6855

Alfa Ambulance (Bucharest)

電話：1-639-7678

大使館の医務官にも緊急時の対応はしてもらえる。しかし医務官の業務は第一義的に大使館員が対象であるので、医務官の好意によることを忘れてはならない。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

個人用常備薬、慢性疾患の治療薬は有効期限を考慮したうえで、できるだけ多めに持参する。赴任後に慢性疾患の治療薬が入用になった場合は、大使館の医務官などに相談しその入手方法を得る。

日本人会の医療部会ではある程度の医薬品を日本より購入して準備している。医療部会に入会し、日頃から相談できる人を得るとよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

一般に、病院の医薬品不足がいられている。抗生物質やワクチンなどは輸入することになり、一般の医療機関では入手は困難である。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品、包帯、ガーゼ、避妊具などは使用に耐えるものが入手可能である。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

病院で治療を受ける際は、注射針などがディスポーザブルかどうかを確認し、新しい注射針などを要求すること。

4-4 妊娠、出産、育児

日本で出産することが望ましい。当地での出産は薦められない。

(1) 妊娠した場合の対応

該当情報なし。

(2) 出産後の対応

該当情報なし。

(3) 育児

3種混合、その他の乳幼児に対する予防接種は日本で済ませてくること。特にルーマニアは小児のエイズ患者数が多く、注射針などについては必ずディスポーザブル使用に留意しなければならない。

哺乳瓶、紙オムツ、ベビーパウダーなどの育児用品は比較的容易に入手できる。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

医療水準は西欧先進諸国や本邦と比較してかなりの遅れがある。医療機器や薬剤に診断や治療を依存する疾患、あるいは手術を要する疾患は当地で治療を受けることは薦められない。必要な場合は先進国への緊急移送となる。

(2) 手術設備の状況

技術・経験の優れた医師はいるが、経済的制約から診断・治療に必要な最新の医療機器あるいは薬剤が十分に備わっていない。旧式建築の病院では衛生管理は十分と言いつても、時には手術室に風が通っていることもある。

(3) その他の留意点

該当情報なし。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

風邪が多い。

(2) 風土病・伝染病

注意を要する疾患としてA型肝炎、B型肝炎、旋虫病、ウイルス性髄膜炎、狂犬病、エイズなどがあげられる。

旋虫病については、感染源となる「検疫をうけていない豚肉」の食用を避けること。特に農村部の小さいレストランでは注意が必要である。

ウイルス性髄膜炎については大型の蚊が媒介するので蚊に刺されないようにすること。特に小児、老人は死に至ることがある。蚊帳、電気蚊取り、虫除けスプレーはドイツ製品が廉価で入手できる。

(3) 有害動物、病害虫

放し飼いになっている犬や野良犬がかなり多く、狂犬病の発生も報告されている。また、犬に限らず猫や狐に噛まれても感染することがあるので注意すること。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

都市部、農村部ともに上下水道などのインフラストラクチャーの整備・管理が不十分である。

(2) 濾過器の入手

該当情報なし。

(3) その他の留意点

該当情報なし。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

教育制度は幼稚園（3～7才児）、小学校4年、中学校4年、高等学校4年、高等教育機関（大学など）3～6年となっている。義務教育は小学校から中学校までの8年間である。

大学へ進学するには、高等学校を卒業する際にバカロレア試験（大学入試試験）に合格したうえで、さらに希望する大学の入試にも合格しなければならない。大学への進学率は低く3割程度と聞く。大学の修学年数は学部によって異なり、例えば経済学部は4年、農学部は5年、医学部は6年である。さらに、試験に合格すれば修士課程（1～2年）もしくは博士課程（2～4年）などに進むことができる。博士号の取得には、まず専門試験に合格する必要がある。その後研究を行って論文を執筆し、審査を受け、最後に口頭試問に合格すると博士号が授与される。

教育機関のほとんどは国立であるが、私立校もある。国立校は授業料が無料である。なお、ブカレストなどの大都市の小・中・高等学校では施設が不足しているために、2部制をとっている場合がある。

保育園（0～3歳）は、企業が従業員のために整備しているものがある。

(2) 日本人学校

ブカレスト日本人学校は1978年4月に開設された。月曜日から金曜日まで授業を行っている。1998年1月現在、教職員10人（日本人教師6人、ルーマニア人教師2人、用務員と運転手が各1人）、生徒数11人である。その他、美術などの臨時教員としてルーマニア人の教師が参加することがある。

ブカレスト日本人学校

所在地：Str. Alexndru Constantinescu (Cimpina) Nr.61, Sector1,
BUCHAREST, ROMANIA

電 話：40（国番号）-1（市街局番）-222-1985

F A X：40（国番号）-1（市街局番）-222-1986

(3) 現地校、外国人学校

当地の学校はルーマニア語による教育を行っている。ほかにはアメリカ、フランスなどの外国人学校がある。外国人学校に通う邦人のほとんどは次のアメリカンスクールを選択している。

American School of Bucharest

所在地：Carea Dorobantilor 39, Sector 1, BUCHAREST, ROMANIA

電 話：40（国番号）-1（地域番号）-212-3498, 3574

F A X：40（国番号）-1（地域番号）-210-2006

(4) 幼稚園

邦人が通園しているのは、アメリカンスクール付属の幼稚園（3歳以上）、個人経営の幼稚園（3歳以上）、私立保育園（1歳半以上）の3つである。これらは全て英語で教育が行われている。アメリカンスクール付属の幼稚園の連絡先などは前項のとおりである。

私立保育園は次のとおりである。

International Nursery School

所在地：Soseaua Nordului 119 P.O.BOX 18-133

電話/FAX(兼用)：40(国番号)-1(地域番号)-232-1137

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

入学、編入希望の児童・生徒の保護者が直接学校に申し出る。編入手続きの手順は次のとおりである。

<日本での準備>

- ・現在の在籍校へ転出予定を転出の1ヶ月前までに報告する。
- ・在籍校から渡される教科書給与証明書と在学証明書を持って海外子女教育振興財団(下記)へ行き、教科書を受け取る。

海外子女教育財団

インターネット：<http://www.joes.or.jp/index.shtml>

東京本部

住所：〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル6階

電話：03-3580-2521

関西分室

住所：〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-200 大阪駅前第一ビル2階

電話：06-344-4318

- ・在籍校から指導要録の写し、健康調査表、歯の検査表(学校で封をしてある)を受け取る。

<ルーマニアでの手続き>

- ・ブカレスト日本人学校へ旧在籍校から受領した書類を提出する。
- ・入学金は200ドルである。授業料は1人1ヶ月340ドルを毎月支払う(変わることもあるので要確認)。その他、教材費として新学期の前に授業料の1ヶ月分程度が徴収される。遠足やスキー学習の時は実費を支払う。
- ・昼食に弁当と水筒を持参する。
- ・スクールバスがあり、コースは児童の住居を考慮して決められている。保護者は児童を毎朝自宅前もしくは近くの指定された場所に指定の時刻までに連れて行き、下校時刻にも同位置に待って児童を迎える。住居の位置があまりコースから離れている場合は事前に学校と相談する必要がある。バスは日本の団体から寄付されたもので、運行の費用は授業料に含まれている。また、その管理も先生の奉仕により行われている。

(2) 現地校、外国人学校

アメリカンスクールの場合は、保護者が入学の可能性を打診し、入学、編入を申し出る。小学校2年生までは英語力は問われないが、3年生以上は試験がある。

小学校3年～中学2年は、まず付属の英語学校(ESL)の入学試験を受ける。小学校6年生の例では、試験は面接程度であり、住所を聞かれたり、場面を設定して話をするなどが行われた。英語学校で語学力を強化した後、正規の学年へ編入する試験を受

け、合格するとアメリカンスクールの生徒となる。高学年ほど高い英語力を求められるため、学年を落として編入する人もある。9月に新学期が始まるので、特に邦人は1学年下へ編入する例が多いようである。

中学3年～高校の場合は、正規の学年への編入試験を直接受けることになる。したがって、学年相当の英語力がないと入学できない。

アメリカンスクールの入学および通学に要する費用などは次のとおりであるが、毎年価格は上げられている。

入学金：無（施設・設備費に含む）

施設・設備費：新入生 3,000 ドル/年、在校生 1,200 ドル/年

授業料：プレ・スクール(Pre-School)…… 3,850 ドル/年

幼稚園～中学2年……10,450 ドル/年

中3～高校……11,300 ドル/年

（上記は一括で支払う場合であり、2回で支払う場合は3%ほど、4回で支払う場合は5%ほど加算される。）

昼食は弁当持参である。お茶は一応は用意されるが水筒も必要である。スクールバスが1台あるが生徒数に対して少なく、基本的にはないと考えた方がよい。

(3) 幼稚園

アメリカンスクールには幼稚園(5～6歳)とプレ・スクール(3～4歳)があり、入学手続きと授業料は前述のとおりである。個人経営の幼稚園の授業料は1998年1月現在で50ドル/月である。

(4) 保育園

International Nursery School (INS) のクラスと1998年1月現在の授業料は次のとおりである。

1歳半～2歳：75ドル/月

2歳～2歳半：190ドル/月

2歳半～4歳：250ドル/月

年齢に端数があるのは平均値を示しているためで、例えば1歳半とは1歳数カ月の子供も含まれる。手続きは午後1時まで直接行って申し込む。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

図書館は多く、国立中央図書館のほか各大学の図書館もある。しかし蔵書はルーマニア語書籍のため、これらを利用している生徒はいない。日本人学校には図書館があり、日本語書籍を貸し出している。

(2) スポーツ施設

日本人学校では、庭でバスケットなどはできるが、特にスポーツ施設といえるものではなく、他の施設を借りて水泳、テニス、スケートなどの学習を実施している。運動会も競技場を借りて実施される。泊まり込みでのスキー学習もある。

アメリカンスクールにも特に施設と呼べるものはないが、庭でバスケットなどを行っている。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

英語の家庭教師を雇っている人は多い。授業料はルーマニア人の教師で1時間あたり5～15ドルと人によって違いがある。中にはアメリカ人などから教えてもらっている例もあるが、その場合はかなり高額である。その他、バイオリン、ピアノ、絵画などの音楽・芸術方面でも家庭教師を雇うことができる。その場合の授業料も人によって違いがあり、聴取した範囲では1時間3～15ドルである。これらの教師の紹介は知人や家主による。

(2) 通信教育

海外子女教育振興財団が行っている海外向けの通信教育があり、小学校、中学校の国語、数学、理科、社会などが受けられる。詳細は直接問い合わせるとよい。また、民間の通信学習教材にも、さまざまな工夫をこらしたものがあるので、選択して持参するとよい。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

日本人学校に必要な教材は学校に用意されているので携行する必要はない。

ノート類はルーマニアでも入手できるが、マス目の入ったものはないので持参した方が便利である。また、絵の具セット、たて笛、習字用具、ピアニカ(小学校低学年)、裁縫道具(小学校高学年)は持参した方がよい。その他、上履き用の靴、水筒、水泳帽、水泳用のゴーグルなども品質を考慮すると日本から持参した方がよい。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

当地には英語のできる人が非常に少ない。英語ができ、かつ信用のおける人を雇うことは、その国の地域情報を得たり、通訳をしてもらったりと好都合である。

自家用車を持っている人のほとんどは、車に関する諸手続きが複雑なため、運転手を雇用している。家政婦／夫については、住居がそれほど広くはないため、必ずしも雇用しているわけではなく、パートタイムで雇用するケースもある。

なお、ルーマニアにおいて、「メイド」という職業は革命(1989年)以前には公的に認められていなかったため、元々メイドに該当する言葉はない。革命後は多くの人々が職業として働いており、現在はフランス語の“MANA JERA”とか「手助けをする女の人」という意味の“FAMEIENA DE SERVICIU”と呼ばれている。ここでは便宜上、家政婦／夫という語を用いる。

使用人の能力や人柄には個人差が大きいので、知人や信用のおける人に紹介してもらうのがよい。なお、雇用形態は運転手も家政婦／夫も通いがほとんどであり、住み込みで雇用している邦人はいない。

6-2 運転手

(1) 雇用

知人などに身元のしっかりした人を紹介してもらうとよい。また、“International Women’s Association”という婦人で構成されている任意団体の会報に求職情報が掲載されることもある。挨拶程度の英語ができる人を雇っている場合が多い。

面談して人物を確かめ、待遇などを取り決めてから1ヶ月程度の試用期間を設けて雇用する。面談に当たって、氏名、生年月日、住所と電話番号、通勤時間、既婚/未婚、英会話能力、紹介者および前職などの項目を設けたルーマニア語の様式を作成しておくとう便利である。職業運転手でなかった人を雇う場合が多いので、できれば実際に運転してもらって技術やマナーを確認した方がよい。

雇用の際は契約書を交わすのが一般的である。契約書の内容は様々であるが、簡単なものを交わした場合でも問題になった例は聞かない。待遇と条件および要求事項をルーマニア語で書いたものを用意した方がよい。

契約に当たっての主な留意事項は次のとおりである。

- ・給与は100～250ドル/月といわれているが現実には様々である。また、運転手以外の仕事(大工や電気修理など)をしてもらう手当を含んで前述の給与になっている場合がある。給与の支払いは1ヶ月に1～2回が普通である。

- ・ボーナスや超過勤務などの手当も支払う。これらも契約書に明記した方がよい。

- ・契約書には、給与には所得税や社会保険および年金などの国民が支払わねばならない金額が全て含まれていることを明記すべきである。これらの支払いは通常は雇用主が行うが、この国の組織・制度に精通していなければ非常に面倒なため、それらの支払いは運転手本人に任せたほうがよく、その旨を明確にする必要がある。

- ・勤務は月曜～金曜で、土日と祭日は休みである。勤務時間は1日8時間である。

- ・一般に、昼食をとらず仕事中にスナックを食べて済ませる習慣であるため、昼食時間は特に定めない。

・有給休暇は一般的な組織では保障されている。JICA 専門家の場合は一時帰国の期間を運転手の有給休暇としているなど、対応は様々である。パートタイムで雇用している場合は有給休暇は設けず、一時帰国中は賃金が発生しない例もある。

・交通規則の遵守、飲酒運転や私的使用の禁止など、重要と考える事項を解雇条件とともに明記し、不適任者を雇用した時の対策を講じておいた方がよい。

(2) 日常管理

出勤管理、走行管理および燃料管理などは、運転日誌を設けて運転手が記入することとし、一日の最後に雇用者が署名確認するとよい。

(3) 教育指導

整備の不備などに気づいたときはすぐに注意した方がよい。

一般にルーマニアの人はプライドが高く、自らの運転方法をなかなか変えない人、運転以外の仕事を嫌がる人、こちらの指示に対して反論してくる人などがあるが、その場合は冷静に対応すべきである。たとえ不愉快なことがあったとしても、そこからルーマニア人全体を批判するような言動は慎むべきである。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

仕事の種類は特に定めず、料理、皿洗い、洗濯、掃除、子守などの全てを任せる場合が多い。

(2) 雇用

雇用方法は、友人、知人や家主などの信頼のおける人から紹介してもらう。英語のできる人は少なく、挨拶程度の会話ができる人を雇用している場合が多い。年齢は比較的高い人が多い。

面談に当たっての聴取事項は運転手と同様である。給与を含めた待遇や仕事の内容などについてよく話し合っておく必要がある。また、試用期間を設けるとお互いの様子がわかるので便利である。契約書を交わす場合もあるが、無い例もある。できればルーマニア語の契約書を交わし、待遇と条件および要求事項などの基本的なことを合意しておいた方がよい。

給与額は様々である。運転手よりは低い場合が多いが、同様の例もある。運転手と同様に、給与や賃金に税金や年金などが含まれていることを明確に伝えること。給与の支払いは、月に1～2回の場合が多い。

住居が広くないために、パートタイム(例：1週間に3日間)で雇用している例がある。また2軒で一人の家政婦／夫を重ねないようにパートタイムで雇用している例もある。パートタイムの賃金も、1日4ドル、または1時間1ドルで計算するなど様々である。

勤務条件は運転手と同様である。

(3) 日常管理

不手際があった場合は、その場で注意することが必要である。

ルーマニア人の一般的特徴として、またメイドやサーバントといった歴史をもたず

に革命後に職業となったことから、やはりプライドが高い人が多い。そのために、指示しても自らが慣れた方法を変えない人もいる。冷静に対応し、不愉快なことがあったとしても、そこからルーマニア人全体を批判するような言動は慎むべきである。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

一般に一戸建ての賃貸住宅は少ないため庭師の雇用はない。もし必要な場合は家主に相談するとよい。また、一般的に治安状況が良好なため、ガードマンを雇うする必要はない。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

中高速の主要国道が鉄道と平行して走っており、主要都市へは飛行機（機体は年式が古い）が利用できる。国外へは飛行機のほか国際列車が運行され、近隣国へは長距離バスがある。

航空……国際空港を兼ねたものとして、ブカレスト・オトペニ、ブカレスト・バニャサ、コンスタンツァーミハイ・コゲルニチャヌ、スチャバ、アラッド、シビュー、ティミショワラ空港がある。国内専用空港として、バカウ、バイア・マーレ、カランセベシュ、クルージ・ナポカ、クライオバ、デバ、ヤシ、オリャダ、サツ・マーレ、トルグ・ムレシュ、トルーチャ空港がある。

ルーマニア国際航空会社 TAROM（タロム）は、エアバス A-310、ボーイング 737、BAC1-11 などの機体を所有している。その他 LAR、ROMAVIA、MIRAVIA、DAC AIR、JARO などの航空会社があり、ルーマニアと世界の 42 都市とを結んでいる。

日本から直接ルーマニアに入ることはできないため、ヨーロッパの各都市を経由する。ブカレストは国内 17 の都市と結ばれている。

鉄道……1995 年現在、鉄道網の総延長は 11,376km であり、その内 34% が電化されている。国内の主要都市のほか、ベルリン、ミュンヘン、プラハ、ウィーン、ブタペスト、ベオグラード、ワルシャワ、キエフ、モスクワ、ソフィアなどの都市へも運行している。

国内列車には、都市間特急、特急、急行、普通列車がある。また、寝台車もある。それぞれに 1 等車と 2 等車があるが、1 等車の方が安全である。1 等座席車は 6 人のコーチであり、1 等寝台車は 2 人部屋である。一部の列車には食堂車がついており、車内販売もある。暖房設備はあるが、冷房設備はない。

指定券は 1 週間前から予約センターで購入することができる。従来は目的地までの片道の指定券しか購入できなかったが、最近では列車によっては帰りの指定券の購入も可能である。なお、駅の窓口では出発の 1 時間前にならないと指定券を購入することができない。

駅の案内窓口や予約センターで時刻表が販売されており、必要な情報は全てこれに記載されている。

列車はダイヤどおりほぼ正確に運行されているが、大雨や大雪で乱れることはある。また、国営企業の閉鎖が続いており、それに反対する労働者のストにより鉄道線路が封鎖されることがある。

ブカレスト市内の交通機関……地下鉄、バス、市電（トランバイ）、電気バス（トロリーバス）、タクシーがある。地下鉄は近代的で便利である。

バス、市電、電気バスの切符は共通であり随所で販売している。路線図も容易に手に入る。切符は乗車してから備え付けのパンチで改札する。改札しないと罰金を取られる。

タクシーは乗車前に料金を交渉した方がよい。メーターが細工されている場合があるので、大体の相場を知っておくとよい。無線タクシーは比較的正規料金に近く安心

できる。ホテルの近くや中心部の交差点では高く請求されることが多い。

(2) 自家用車を利用する場合

一般に、運転マナーはよいとは言えない。車の急増に伴い事故も増えている。舗装状態が悪いため陥没や凹凸があり、路上に故障車や障害物など多いので要注意である。

中心部は一方通行が多く複雑である。信号機は機能しないことがあるが、各交差点に付いている優先標識に従えば問題ない。冬季は路面凍結するときもあるが、多くの車はスノータイヤを装着していないのでスリップに注意すること。また、市外では街灯が少なく、さらに道路状況も悪くなる。郊外では夜間の馬車の走行に注意すること。ガソリンスタンドは郊外にも増えてきている。

(3) レンタカーなどを利用する場合

主要ホテル、ツーリスト、空港で申し込める。保険制度がある。料金は車両のみでは1日約20ドルから、運転手付きでは約100ドルからである。

(4) 道路地図

ルーマニア全土を一枚に納めた道路地図がある。また、ルーマニア全土を一冊にまとめた詳しい道路地図「ROMANIA atlas turistic rutier」がある。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

事故を起こした場合は、最寄りの警察に通報しなければならない。すぐに過失の有無が決定される。人身事故の場合は被害者を救急病院へ移送すると同時に、JICA 駐在員事務所または大使館に至急連絡を取る。

当事者間の示談は言葉の問題もあり避けた方が無難である。

強制保険は相手の車両だけに適用され、低額である。外資系の任意保険にも加入できるが、事故処理はしてもらえない。

(2) 救急病院

SPITALUL CLINIC DE URGENTA……TEL : 01-962-212-0170, 212-2312, 679-4080

(3) 盗難

カーステレオなどは窓を割られて盗難に遭うため、なるべく付けないか脱着式にする。車内に荷物を積んだままにしないこと。免許証、車検証なども夜間には車内に残さないこと。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

右側通行で、路線標識は日本とほぼ同じである。制限速度は市内で60キロ以下、郊外で80キロである。横断歩道や黄色信号での停止義務の取締が厳しく、急停止するので追突に注意すること。子供は前席に乗せてはいけない。

(2) 対処方法

該当情報なし。

7-4 車の修理

(1) 部品

日本車の代理店でもほとんどの部品は取り寄せになる。定期的な交換部品（フィルターなど）も品揃えが少ないので、あるときに確保しておくといよい。

(2) 修理工場

市内各所にあるが技術的に格差がある。部品を中古と替えられることがあるため、信頼できる店を選ぶか監視を付けた方がよい。

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

市内には2種類の公衆電話がある。黄色い公衆電話はカード式で、国際電話もかけられる。一方、青い公衆電話（旧式）はコイン式で国内専用である。通話料金はブカレスト市内で1分間300レイ（97年11月現在）である。新たに設置されるのは黄色の型が多い。ブカレスト郊外や地方においては公衆電話は少なく、見つけることは困難である。したがって電話局で市外・国際通話を申し込むことになる。また、割高ではあるがホテルの電話を利用する方法もある。

最近では携帯電話の普及が著しい。しかし、すべて民営であるためか、時折通信不能状態が生じる。

電話の新規開設は、新しいオフィスビルなどで電話線がビルの中までひかれている場合は比較的早い。開設に必要な書類などは次のとおりである。

- ・ 開設依頼書
- ・ 事務所の開設許可書（JICA事務所の場合はルーマニア外務省発行の、公証人の証明書つき開設の口上書を代用、民間の場合は商工会議所などの証明書）
- ・ 事務所借用書（公証人の証明付）
- ・ 銀行口座
- ・ 基本料金の2ヶ月分の前払い（97年6月現在、3線で480,000レイ）および据え付け料金（97年6月現在、3,450,000レイ）。
- ・ 通常、早く設置させるためには心付けが必要である。

(2) 国内電話

ダイヤル回線なので時間がかかる。設置電話での通話料金はブカレスト市内では3分まで210レイである。携帯電話にかけると市外通話と同じことになり1分間で約1,900レイかかる（97年10月現在）。

(3) 国際電話

国際電話を直接かけられるインターナショナルラインと呼ばれる回線と、交換手を通さなければならない回線がある。最近ではインターナショナルラインが急増しており、交換手を通す場合でも非常にレスポンスは早くなっている。日本までの通話料金は1分間15,000レイであり、オーストリアまでは1分間6,500レイである（97年10月現在）。

従来、回線をインターナショナルラインに替えるには半年以上を要したが、現在は若干早くなっている（多くの場合、心付けを要求されるようである）。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

インターナショナルラインであれば簡単に設置できる。原則として電話公社に届けなければならない。まず電話・ファックス兼用機を許可なしで設置したあと、その機械のメーカーの証明書をもって届けを出すケースもある。電話公社の民営化・自由化が進められているため、これらの規制は緩くなる傾向にある。

外出先ではホテルまたは電話公社の支局で利用できる。ホテルでは使用料が加算さ

れ大変割高である。

(2) テレックス

官庁などのほとんどが利用していたためテレックスは発達しているが、最近ではファックスに替わってきており、新規に設置する話しはあまり聞かない。

電話局の支店では申し込めば利用できるところもある。日本までの料金は 13,900 レイ/分である。(料金はすべて 97 年 11 月現在)

事務所などにテレックスを設置する場合は、最初に設置費として 658,000 レイが必要である。毎月の使用料は 73,000 レイ、機器レンタル料金は 392,000 レイである。

(3) 電報

市内の電話局で申し込みができる。日本への料金は 640 レイである (97 年 11 月現在)。

(4) インターネット

国内にいくつかのプロバイダがある。ここでは邦人がよく利用している ROKNET について記述する。このネットは日本の大倉商事の合弁会社 ROKURA がプロバイダになっている。ROKURA の契約料金は、使用時間 40 時間/月では付加価値税なしで 45 ドルである。40 時間を超えると 1 時間あたり 1.5 ドル加算される。

8-3 郵便

(1) 一般事情

郵便の宛先は自宅よりも、受入機関や所属先気付けが安全である。受入機関などの事情を考慮したうえで指定すること。

中央郵便局などはなく、No.1 から No.82 までの郵便局がある。その中に外国からの郵便などを取り扱ういくつかのメイン郵便局があり、その一つにブカレスト郵便局 No.1 がある。外国から荷物がつくと外国便を取り扱う郵便局から配達される。その都度、関税問題をクリアする必要がある。

POSTAL OFFICE No.1 (郵便局 No.1)

所在地：10 Matei Millo street Bucharest Romania

電話：400-3459.615-5096,614-6053

通常、輸送・通信に要する日数は次のとおりである。

航空郵便……………約 4～7 日

航空小包……………約 7 日 (税関を通る場合は異なる)

民間クーリエ……………約 3～5 日 (同上)

(2) 課税

本、食料品、衣料品、電気製品など (手紙以外ほとんどの品) は必ず税関を通らなければならない。その手続きは事務所員、協力隊員、専門家などによってそれぞれ異なる。ただし、入国後 6 ヶ月間までは生活用品などについては無税であるので手続きをすれば問題はない。大使館気付けで送付した場合は大使館の署名がいる。

DHL や OCS で貨物を送付した場合は、インボイスの記載は実際の内容物と合っていないなければならない。間違いがあると引き取り時のトラブルとなる。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

Evenimentul Zelei(エベニメントウル・ジレイ紙、38,000 レイ/月)、Adevarul(アデバルル紙、12,000 レイ/月)、Romania libera(ロムニア・リベア紙 12,000 レイ/月)、日刊スポーツ紙の順で読まれている。国内での発行数および購読数とも地元新聞が一番多い。

新聞はキヨスクなどで販売している。定期購読は前払いが必要である。

英語版ではナインオクロック(月～金発行、10ドル/月)がある。ナインオクロックは、政治・経済中心に記述されている唯一の英語紙である。その他、仏文、ドイツ文の新聞もある。(料金はすべて97年11月現在。)

(2) 本邦日刊紙

OCSサービス(海外新聞普及協会)を通して本邦発行のすべての新聞が入手できる。ロンドンのOCSか日本で申し込む。ルーマニアのOCSでは配達しか取り扱っていないので申し込みは受けつけない。支払いは基本的に3ヶ月分ずつの前払いであり、銀行振込でもカード引き落としでもよい。

OCS Europe Limited (ロンドンOCS)

所在地: Ground Floor North, Brettenham House, Lancaster Place, London,
WC2E 7EN

電話: (44) 171-379-7362

FAX: (44) 171-379-7512

(3) 欧米紙

外国発行の各種新聞も入手できる。

INTERNATIONAL HERALD TRIBUNE (32 USD/MONTH、英語)、FINANNCIAL TIMES (32 USD/MONTH、英語)、LE MONDE (40 USD/MONTH、仏語)、LE FIGARO (40 USD/MONTH、仏語)、COPRIERE DELLA SERA (32.5 USD/MONTH、伊語)、FRANKFURTER ALLGEMEINE ZEITUNG (37.8 USD/MONTH、独語)、BILD (43 USD/MONTH、独語) などがある。一般のキヨスクなどにはないが、ホテルで購入できる。定期購読については次の取り扱い所がある。

VALENTI INTERNATIONAL PRESS

所在地: Str. Dorobeta 4-10, ET 3, a.p. 3, Sector 3, Bucharest

電話: 210-8382

FAX: 210-8328

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

国営ラジオには次の5局がある。

第一放送局: 一般向けニュース中心 153Khz

第二放送局: 文化番組中心 855Khz

第三放送局: 青少年向け 101.3 Khz

第四放送局: ブカレスト地域向け

ブカレスト国際放送局: 国外向け

革命後はF U Nラジオ（学生放送）、ラジオNOVA、ラジオ・デルタ（フランス国際放送を中継放送）などの民営FM局が首都ブカレストを中心に放送していたが、現在はPROFM 102.8 (FM) やラジオコンタクト 96.7 (FM) がよく聞かれている。

(2) ラジオジャパン

ラジオジャパンはヨーロッパ周波数帯で聴取可能であるが、受信状態は非常に悪い。周波数はNHK発行の「NHKワールド」（JICA 事務所にて入手可能）で確認すること。また、インターネットでも番組表を含む情報提供サービスが行われている。

<http://www.nhk.or.jp/rjnet/>

(3) 聴取可能なその他の外国放送

隣国の放送は聴取可能であり、特に革命の際、ラジオ放送による情報が非常に有効であったことは有名である。BBC（ルーマニア語が主体、短波 6050 Khz、11660 Khz、9840 Khz、7325 Khz）やVoice of America（ルーマニア語、英語、1197 Khz、68.7 Mhz、FM ESAT 92.7Mhz が有名である。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

国営テレビが2チャンネルあり、毎日およそ15時間放送している。国民より放送内容が政治的に中立でないとの非難が多いため、94年4月に国営ラジオ・テレビ局法案が可決され、公選による理事会が運営を行っている。

民営テレビには、多様な映画・スポーツ・娯楽番組を中心とした放送を行い急速に視聴率を獲得しているPROTV放送をはじめ、各界の著名人を招いた対談番組に人気のあるTELE 7 abc放送、充実したニュース番組や映画中心のANTENA放送、娯楽番組中心のCANAL38放送がある。

ブカレスト市内にはケーブルTV社が数社あり、それぞれ外国（英、独、仏、伊、西、トルコなど）の多彩な番組を見ることができる。

1997年9月現在のアンケート調査によるテレビ聴取傾向は次のとおりである。

イ) 親しみを持っている放送局（複数回答）

- 1位 PROTV.....73%
- 2位 国営放送第一58%
- 3位 ANTENA50%

ロ) 人気番組

- 1位 「ミッドナイト百万長者」（政治・経済トークショー）
- 2位 PROTVのニュース番組
- 3位 国営放送のニュース番組

政治的にはそれぞれ中立の体制をとっているが、一般に民間は政府に批判的である。

(2) テレビ受信

ブカレスト市内ではケーブルによる受信が普通であり、アンテナによるものは少ない。受信料は国営テレビの場合は1年を4期に分けて支払う。1期分はおよそ9,300レイである。その他ケーブルテレビは6ヶ月分前払いでおよそ117,000レイ（CNNが見られないネットワークの場合）である。放送はほとんどがPAL方式である。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

娯楽の少ない当地では、映画は最も親しまれている娯楽の一つである。映画館は首都ブカレストでは数多く、映画館通りのようなところもある。上映内容も充実しており最新の話題作も観ることができる。

ブカレストの主な映画館は次のとおりである。入場料は7,000～10,000レイである。

Sala Palatului……所在地：Str. Ion Campineanu

Patria……所在地：B-dul. Magheru 12-14

Scala ……所在地：B-dul. Magheru 2

Bucuresti ……所在地：B-dul. M. Kogalniceanu 6

Festival……所在地：B-dul. M. Kogalniceanu 14

(2) 劇場

オペラ、バレエ、演劇が盛んで多彩である。特に、国立劇場、国立オペラ劇場はブカレストの中心地に堂々たる威容を放っており、文化活動に対する国民の関心の高さがうかがえる。また、子供のための人形劇の劇場などもある。観劇料は総じて廉価であり、オペラでは演目によって差はあるが15,000レイ程度である。

ブカレスト市内の主な劇場は次のとおりである。

Opera Romana (国立オペラ劇場) ……所在地：B-dul. M. Kogalniceanu 70-72

Teatul National Bucuresti (国立劇場) ……所在地：B-dul. N. Balcescu 2

Teatul de Opereta (オペレッタ劇場) ……所在地：B-dul. N. Balcescu 2

Teatul Odeon (オデオン劇場) ……所在地：Str. Calea Victoriei 40-42

Teatul Nottara (ノッタラ劇場) ……所在地：B-dul. G. Magheru 20

Teatul Tandarica (タンダリカ子供劇場) ……所在地：Calea Victoriei 48-50 (Sala Victoria)

そのほか、Piata Alexandru Lahovary (Sala Lahovary) などがある。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

ルーマニアおよび西側の雑誌などは容易に購入することができる。種類としては生活関連雑誌、コンピュータ関連情報誌、ビジネス雑誌、風俗誌が多い。

旧社会主義の影響と思われるが、一般書籍はルーマニア、および西側発行のもの共に品揃えが少ない。

(2) 書店

首都においても書店は少ない。特に英語の出版物を扱っている店は数えるほどしかなく品数も少ない。ルーマニアの週刊誌、月刊誌などの定期刊行物はバス停留所、地下鉄駅などで新聞と一緒に販売されている。西側で出版されている定期刊行物の雑誌はスーパーマーケットに並べられている。また、ブカレスト中心部の大学広場付近の路上では古本の露店が多く軒を連ねている。これはルーマニア語ができる人にはおもしろい。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

該当情報なし

(2) 家庭教師

家庭教師は、知人に紹介してもらうなど口コミで探すことが多い。ブカレスト大学の日本語学科の卒業生や学生にあたるのが最も確実な方法である。料金は1時間で5～10ドル程度である。ただし、教師が外国人の場合は多少割高と思われる。ブカレストの社会・文化を知るよい機会であり、気の合った人が見つかりと語学以外の楽しみも増える。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

チャウシェスク政権下での文化芸術活動は、行政的にもイデオロギー的にも統制管理されていたが、革命後は自由な文化活動が可能となった。また、文化省が新設されるとともに、社会主義時代の職員の約8割が新規採用職員と入れ代わった。95年9月には4年ぶりにジョルジュ・エネスク国際音楽祭が開催されるなど、活発な文化活動推進のための土壌が形成されつつある。

国立劇場、オペラ劇場、映画館など文化施設の大半は文化省からの補助金で運営されているが、政府の文化関係予算が限られているため運営に苦慮している。

(2) 日本友好協会などの有無と活動内容

革命後は自由な交流が可能となり、政府間レベルでは文化施設の音響機材などの付属機材の供与などが多々行われている。日本・ルーマニア協会、ニッポニカ協会などの友好協会もあり、ブカレスト市内への桜の寄贈や「ジャパン・ウィーク」の主催をするなど活発な活動を行っている。その他、ルーマニアにおける日本映画週間、日本語スピーチコンテスト、狂言講演などやエネスク・フィル、ブラショフ少女合唱団、国立ブランドラ劇場などの日本公演、音楽家などの相互訪問など文化交流は順調に進展している。

(3) その他の文化活動、文化施設

International Women's Association (IWA:ブカレストに住む外国人女性の親睦会)がある。IWAへの入会は随時可能で年会費は25ドルである。邦人の現会員を通じて申し込むのが簡単な入会方法である。また、邦人女性有志でトールペイントやルーマニアの伝統美術であるグラスペイントなどの作品を作るサークル活動も行っている。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

日本のメーカーを含む各種のフィルムがあり、ブカレスト市内のスーパーマーケットやDPEサービス店など各所で販売されている。

DPEサービスは早く、即日仕上がりの店もある。

軍事施設、国境付近、空港およびその他の重要施設などでの撮影は禁止されているので注意が必要である。

(2) ビデオセット

ビデオデッキは日本のものを含めた各種メーカー品が出回っているがNTSC対応の

マルチシステムは日本メーカーの製品だけである。ビデオソフトは音楽専門店、デパート、スーパーマーケットなどで販売されているが、まだレンタル業は存在しない。

(3) 各種テープ

該当情報なし。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

オーケストラ、室内楽団によるコンサートは年間を通じてそれぞれの専門ホールで催されている。夏期には郊外にあるヘラストラウ湖畔で野外演奏も行われている。通常、午後6時30分から始まる。

クラシックが中心であるが、ルーマニアの現役作曲家たちの作品を紹介することもあり興味深い。演奏法は正統派で、古風な趣が濃いが高水準にある。

入場券の予約、購入はホテルを通じて、または直接演奏会場の窓口でできる。

市内の主なコンサートホールは次のとおりである。

Ateneul Roman (アテネ音楽堂)

所在地：Str. Franklin 1

Sala de Concerte a Radioteleviziunii (ラジオ・テレビ局コンサート・ホール)

所在地：Str. Nuferilor 62

(2) コーラス、演奏グループ

該当情報なし。

(3) ピアノなど

音楽専門店 (YAMAHA, MAGAZINE MUZICA など) から購入できる。また、人づてに中古を入手すると割安である。バイオリンなどは質のよい国産品があり安価である。

各種楽器の個人教授も探すことができる。

(4) CD、レコードなど

クラシック、民族音楽およびポピュラー音楽とも品数・種類はそれほど豊富ではないが、音楽専門店、スーパーマーケットおよびデパートなどで入手できる。

(5) 民族楽器

パンフルートと呼ばれる長さの違う数本の管を並べて作られた竹の笛がある。管の数からは想像もできないほどの音域と表情を醸し出す。廉価なものが土産物として売られている。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

マクラメと呼ばれるレース状のテーブルクロス、民族衣装を着た木造人形、各種木工芸品、木製アイコン、皮革製品などがある。どれもあまり手の込んでいない素朴な物である。前述の音楽専門店、デパートの他、各所で販売されている。

(2) 絵画、美術工芸

市内各所にギャラリーがあり、骨董品などを扱う店もある。ときには掘り出し物が手に入るようだが、古くて価値の高い物は持ち出せないことがあるので注意すること。

購入の際の領収書、証明書は必ず保管しておくこと。

10-8 趣味

(1) 園芸

該当情報なし。

(2) 釣り

釣り人口は非常に多く、単なる趣味としてだけでなく、生活の手段としても盛んに行われている。ドナウ川をはじめとする大小河川、淡水湖沼などで、コイ、フナなどの小魚から、大河川ではパルクと呼ばれるナマズの一種およびキャビアで有名なチヨウザメまで釣れる。

道具類はオポール広場やノルド駅近くの釣り具専門店で手に入れることができる。ほとんどのルーマニア人は釣りの経験があるので、聞いてみるとよい。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

ブカレスト市内や地方の高級ホテル・レストランにはカジノがある。市内の各所にビリヤード場があり、ボーリング場もいくつか営業している。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

ブカレスト郊外や農村は市内とは全く違ったのどかな雰囲気を持ち、空気もきれいである。ブカレスト郊外には湖を有する小規模なりゾート地のスナゴフをはじめ緑地帯があり、家族とのピクニックなどに適した行楽地が点在する。

山間部の林間は乾燥地特有の牧草地のような景観を呈し、いたるところでバーベキューなどを楽しんでいる。

トランシルバニア地方の諸都市の町並みは、まだ中世の面影を色濃く残しており、興味深い。当時の城壁、教会および市庁舎などの建造物が見ることができ、歴史博物館などもある。ブカレストからの週末旅行などにちょうどよい距離である。

ブカレストには中心地から北部に細長い湖沼に沿って連続した大規模な緑地公園地帯が広がっている。ここでは季節に応じて様々な草花を植えた花壇が広がり、訪れる人を楽しませてくれる。また、敷地内には少し古い小規模な遊園地があり小さな子供には楽しいところである。さらに、湖には遊覧船まで運航しているほか、ボート遊びも楽しめる。

ブカレストには常設のサーカス小屋（下記）があり、夏のバケーションシーズンを除いて、年に2期開催している。出し物は各期趣向を変えている。

Circul GLOBUS

所在地：Aleea Circului 15

(3) ディスコ、カラオケ

一般に、ルーマニア人は陽気で踊りが好きである。ディスコは市内の各所にある。カラオケはまだ浸透しておらず、日本人が経営するスナックのような店以外にはないようである。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

ヘラストラウ公園内に1ヶ所ある(9ホール)。

(2) テニス

盛んに楽しまれている。公園内やホテルなどにコートが多くあり、その場で申し込める。屋内コートは少ないため、冬季は事前に予約する必要がある。個人レッスンも容易に受けられる。ラケットやボールはスポーツ用品店で買えるが、品数は限られている。

(3) 水泳

スポーツクラブ、ホテルのプールを利用できる。市民プールもあるが水質に注意する必要がある。

(4) その他のスポーツ、用具、ウェア

サッカーはレベルが高く、観戦も楽しめる。その他、ブカレストではアイススケート、釣り、乗馬、山間部や河川ではスキー、登山、釣り、ハイキングと幅広く楽しむことができる。ウェア、各用具は各専門店で購入できる。

(5) スポーツクラブなど

該当情報なし。

10-11 子供の遊び

該当情報なし。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

ブカレスト市内では外資系銀行の利用者が増えてきている。地方においてはまだ外資系銀行がないことが多く、ルーマニア銀行である BANCOREX を利用することが多い。

BANCOREX に口座を開設するに当たって、個人の場合は身元保証人が必要であり、大使館に依頼することになる。地方においては受入先などに依頼する。

外資系銀行に開設する場合は個人口座のみを開設することが難しい銀行が多いので注意を要する。JICA 関係者には ING BANK の利用が多い。同銀行は個人で申し込んでも口座が開設できる。ただし、ルーマニアでは法人格でなければ、銀行の中でドルからレイ（現地通貨）への交換はできない。個人口座ではドル現金で下ろし、市内の交換所で現地通貨にしなければならない。

よく利用されている銀行は次のとおりである。

銀行	所在地	電話	F A X
ABN-AMRO BANK (オランダ系)	2 Expozitiei Blvd, Bucharest	222-8020	223-4738
BANCOREK (外国貿易のためのルーマニア銀行)	22-24 Calea Victoriei, Bucharest (本店)	614-7378, 614-9190	614-9598
BANQUE FRANCO-ROUMAINE (フランスとの合併)	3-5 Piata Aviatorilor, Bucharest	223-3040	223-3600
THE CHASE MANHATTAN BANK	42-44 Vasile Lascatr St., Bucharest	210-7644, 210-7646	312-7610
CITI BANK	Str. Iancu de Hunedoara 8, Bucharest	210-1850, 210-1851, 210-1852	210-0465
ING BANK	Sos. Kiseleff 13-15, Bucharest	222-1600	222-1401
INCO BANK	17-90 Doamnei St., Bucharest	312-3629, 312-3637	311-2345
ION TIRIAIC BANK(ヨーロッパ復興 開発銀行とルーマニアの合併)	12 Doamnei St., Bucharest	638-7560	312-5878

11-2 コンピュータ

市内のいたるところで IBM およびその他のパソコン、互換機は購入可能である。Macintosh についてはシェアが少なく取り扱い店は少ないが、購入可能であり、修理などの相談も可能である。取り扱い店の一つに IRIS S.A がある。

ブカレストにはいくつかのプロバイダがあり、電話線があればサービスが受けられる。その一つに、日本の大倉商事の合併会社である ROKURA (TEL:211-1650) がある。邦人も駐在しており便利である。利用料は他の物価と比べてかなり高く、月 40 時間以内の使用で 45 ドルである。

11-3 美容院・理髪店

市内のいたるところに見受けられる。ホテルの中の理髪店・美容院は技術も高く、衛生的であるが値段も高い。

一般にカミソリの刃はディスposableのものが使用されているが、なかには出来るだけ替えないで済まそうとする場合もあり、必ず取り替えるよう注文したほうがよい。ルーマニア語ができなくてもボディランゲージで理解させることが重要である。

好みの髪形などを言葉で伝えるのは困難であるが、写真などを示して注文するとスムーズである。

邦人がよく利用するのはソフィテルホテル、インターコンチネンタルホテル、ブカレストホテルなどである。電話番号などはホテルの項を参照のこと。

値段は店により様々であるが、理髪店ではシャンプー、整髪でおよそ2～3万レイ、美容ではシャブー、カット、ブローでおよそ4～5万レイである。

毛染め、マニキュアなども注文できる。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

国内旅行について外国人への規制はなく、自由に旅行することができる。治安はブカレストより地方の方がよいといわれている。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

地形の多様性、歴史的な遺跡、民俗的な伝統、伝統芸術などに富んでおり、多くの観光地と保養地がある。主要な観光地はブカレスト、ママイアーエフォリエ・ノルドーネプチューンの黒海のベルト状の海岸、ドナウデルタ、ブケギ山脈、プラホバ渓谷、ブラショフの山岳地帯などである。

モルドバ北部のプロコピナには、16世紀に描かれたフレスコ画で有名な修道院と教会がある。そのフレスコ画は世界遺産となっている。

ムラムレシュ、トランシルバニア南部にはヤシ、クルージ・ナポカ、シビュー、シギショワラなどの都市があり、中世の痕跡を色濃く残している。

「地球の歩き方 ブルガリア/ルーマニア」（ダイヤモンド社）などを参考にすれば、問題なく主要な観光地を訪れることができる。総じてホテルの料金は高いが、その星の数に合った設備とサービスを期待することはできない。

12-3 旅行

(1) 自動車

ルーマニアの道路網の総延長は72,859kmである。その内17,608kmは舗装された道路であり、14,683kmが国道である。主要国道の大部分は鉄道線路に併行している。

ルーマニアとヨーロッパを結ぶ幹線道路があるが、道路網は単純である。高速道路は、ピテシュテとブカレストの間の1本だけである。殆どの道路は老朽化しており、路面状態は非常に悪い。ブカレストから観光地であるシナイアに至る道路は補修作業が続いている。

シェルとアジップ（イタリア）のガソリンスタンドが増えている。現在のところ、アジップは、ブカレスト市内とその近郊だけである。地方の約10都市には、シェルのガソリンスタンドがある。その他の古いガソリンスタンドでは、時に品質の悪いガソリンを給油されることがあるので注意すること。出発前にスタンドの位置を確認しておくことと安心である。緊急時の修理体制が整っていないため、車両はよく整備しておくことが肝要である。

ブカレスト～主要な都市の距離は次のとおりである。

都市	距離 (km)	都市	距離 (km)	都市	距離 (km)
アラッド	599	オリャダ	656	バカウ	302
ピテシュテ	108	バイア・マーレ	625	プロイエシュテ	59
ブラショフ	166	レシタ	478	ブライラ	199
サツ・マーレ	684	クルージ・ナポカ	497	シビュー	315
コンスタンツァ	226	スチャバ	447	クライオバ	209
トルグ・ビシュテ	80	デバ	450	トルグS・ジウ	316
ガラチ	230	トルグ・ムレシュ	448	フネドアラ	456
ティミショワラ	533	ヤシ	401	トルーチャ	334

(2) バス

主要都市間を結ぶ長距離バスがある。また、ブカレストとヨーロッパの都市を結ぶ長距離バスがある。しかし、邦人が長距離バスを利用した例はあまり聞かない。

(3) 鉄道

指定券は、1週間前から予約センターで購入することができる。駅の窓口では、出発の1時間前にならないと、指定券を購入することができない。駅の案内窓口や予約センターで時刻表が販売されており、必要な情報は全て時刻表に記載されている。

鉄道の駅は都市の中心部から離れている場合が多く、中心部に行くにはタクシーなどを利用する。

(4) 航空機

ブカレスト中心部のマゲル通りに沿って各航空会社の営業所があり、航空券を購入することができる。また、旅行代理店も数多くあり、そこでも入手することができる。

ホテルのカウンターなどで入手できる情報誌「BUCURESTI」には航空会社の案内がでているので利用するとよい。なお、ヨーロッパの各都市にでかける際は、土・日はさんだ日程にすると運賃が格段に安くなる。

ブカレストとヨーロッパの各都市との距離は次のとおりである。

都市	距離 (km)	都市	距離 (km)	都市	距離 (km)
アムステルダム	2,292	リスボン	4,246	アテネ	1,224
ロンドン	2,560	ベルリン	1,786	ルクセンブルグ	2,138
ベルン	1,966	マドリード	3,489	ボン	1,751
モスクワ	1,899	ブリュッセル	2,242	パリ	2,379
ブタベスト	824	プラハ	1,406	コペンハーゲン	2,710
ローマ	2,039	ヘルシンキ	2,681	ソフィア	398
イスタンブール	733	ストックホルム	3,278	キエフ	1,291
ウイーン	1,079	キシネフ	650	ワルシャワ	1,210

12-4 旅行代理店

国営企業の流れをくむ旅行者カルパチオネテがある。1989年の革命後、続々と旅行者が開業している。マゲル通りや勝利通り、その周辺の通りに沿って各社が営業している。業者の対応は必ずしも親切とはいえないが、何軒かを訪ねて相性の合う業者を探すとよい。ほとんどの場合英語が通じる。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

直接ホテルに申し込むか、旅行者をとおして申し込む。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

大使館と日本人会が作成している緊急連絡網、および JICA 事務所で作成している連絡網がある。伝達方法は主に電話である。

おおまかな伝達手順は大使館→事務所→協力隊員、大使館→専門家となる。

(2) 避難

緊急時には飛行機の手配などは困難になることが予測される。大使館と相談し、その指示に従って行動することが基本である。

従来、地方に住む邦人はほとんどいなかったため、大使館や JICA では地方対策は今後の課題となっている。例えば、ハンガリーに近いところでは無理をしてブカレストに戻らず、ハンガリーなどへ避難することなども考慮する必要がある。その場合でも事務所（または大使館）との連絡をとることが基本である。また、避難時にはルーマニア滞在許可の確認、旅券記載事項変更・訂正・追加、状況に応じた避難予想先の査証を取ることに留意すること。避難には可能であれば航空を利用する。

ブカレスト内の航空会社の連絡先は次のとおりである。

TAROM	613-42-95、614-27-47
TAROM（オトベニ）	212-01-22、212-01-38
オーストリア航空	614-18-22、314-12-21
ルフトハンザ航空	650-69-83、312-95-59
エアフランス航空	312-00-85、312-00-86
スイス航空	312-02-38、312-02-39
アリタリア航空	210-41-11、210-41-12
デルタ航空	323-44-65、323-44-58
英国航空	210-73-30、614-04-00
オトベニインフォメーション	212-16-02

緊急時に備え、平素より留意すべき事柄は次のとおりである。

- ・必要最小限のものはスーツケースなどにまとめ、いつでも持ち出せるようにしておく。
 - ・家族全員の 10 日間位の生活費、および西側諸国へ移動するのに必要な現金（外貨）を手元に確保しておく。
 - ・食料、飲料水、医薬品、燃料などの非常用物資の備蓄。（少なくとも家族全員が 10 日間凌げることを目安とする）
 - ・その他、ナイフ、磁石、マッチ、缶きりなどのサバイバル用品の準備。
 - ・自動車の整備を心がけ、予備タンク（金属性）を備えておく。
 - ・緊急時の連絡に備え、大使館への在留届け（帰国届け）や転居届けは必ず行う。
- 3 ヶ月以内の短期専門家および調査団も必ず JICA 事務所に動静を連絡すること。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況など

東欧諸国のなかでは比較的治安はよい。しかし 89 年の革命後は徐々に犯罪が増加

している。例えば、91年の自動車の盗難件数は1414件であったが、96年には2768件となっている。犯罪増加の要因として、新政権による急速な民主化・自由化の実施により貧富の差が激しくなったことが考えられる。

邦人に対する凶悪犯罪はまだみられないが、次のような被害が報告されている。

・ブカレスト市内における闇換金（両替）詐欺

しつこく換金をすすめ、これに応じると換金とみせかけて巧妙に小額の金とすり替えて逃亡する。断わった場合でもそこに警官と称するものが現われ、警察手帳らしきものを見せて、金を調べるふりをして持ち去る。

対策は、「金を持っていない」と言ってその場から立ち去ることである。

・盗難

列車やカフェテリアは置き引きに要注意である。また、邦人単身赴任者の留守宅で家財一式すべて盗難にあったケースもある。

・その他

ブカレスト市内の交差点付近では、子供や学生風の人が頼みもしないのに車の窓を拭いて小銭をせびったり、浮浪者が物乞いのため停車中の車にすり寄って来ることが多い。そばには必ず彼らの仲間がいるため、窓を開けて対応したり車外に出て追い払ったりすることは危険である。相手にすることなく毅然とした態度をとること。

(2) 防犯対策

一般的に留意すべきは次のとおりである。

- ・自分と家族の安全は自分たち全員で守るという心構えが必要である。
- ・「予防」こそが最高の危機管理であり、そのための努力や経費は惜しまないこと。
- ・現地に溶け込むこと。隣人、現地職員、在留邦人といった様々な形で情報や援助を提供してくれるネットワークを形成することに努める。
- ・夜間の一人歩きはしない。外出の必要があるときは自動車やタクシーなどを利用すること。
- ・危険なところに近づかない。特にノルド駅付近は危険と言われている。

住宅警備対策は次のとおりである。

- ・治安の極めて悪い地域では独立家屋は避け、集合住宅にすること。
- ・独立家屋の場合は、住宅の三方が他の住宅で囲まれているのが望ましい。四方が道に面していたり、空き地に隣接している住宅は避けた方がよい。
- ・集合住宅は2階以上（1階は独立家屋と同じ警備体制が必要）が望ましい。

その場合でも上下からの賊の侵入には警戒が必要である。

- ・効果的な侵入防止策として、ワンドア・ツーロック（玄関扉や通用口）、防犯ベル・サイレン、鉄格子、センサーで点灯する照明装置、番犬の飼育・警備員の配置などがある。

(3) 被害時の心得

被害にあった時、事件に巻き込まれた時は、まず大使館、または JICA 事務所に相談し対策を考えること。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況など

ハンガリーとの隣接地帯で水害が発生した。ブカレストにおいては水害の危険はないが、1977年3月に大地震があり相当の被害が出た。

(2) 防災対策

特に集合住宅の場合、地震の可能性がある地域では建物の耐震性、地盤などの安全性を確認すること。また、防火、消火設備、避難経路、現地消防能力についての調査が必要である。

(3) 被災時の心得

被害を受けた時は大使館、または JICA 事務所と連絡をとり今後の対策を考える。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

1998年現在拡張工事中であり、将来は出発ロビーと到着ロビーの建物が別になる可能性が高い。現在のところ出発ロビーは2階（ルーマニアの言い方では1階）、到着ロビーは1階である。通常、飛行機から空港ビルディングまではバスで送迎される。

(2) 入国手続書類

基本的には、入国カードおよび出国カード（一枚の用紙）に記入し、パスポートと一緒にイミグレーションに提出する。審査の後パスポートと出国カードは返還される。出国カードは出国時に必要であるので紛失しないこと。

赴任時に多額のドル現金を持参して銀行に預けるときは、必ず空港で登録すること。この登録がないと銀行に預金ができない。

アンティークや楽器などの貴重品の持ち込みは必ず申告し、持ち込み証明書をもらうこと。また、オーディオ製品などの電化製品の持ち込みも申告が必要である。

急速な西欧化により、通関手続きは簡単になってきている。

(3) 入国審査

一般に、公用旅券所持者は外交旅券所持者に準じて取り扱われるのでそれ程厳しくない。ビザも入国時に空港で発行してくれるため、再入国ビザなどの取得は必要ない。

(4) 税関検査

公用旅券所持者は外交官に準じて取り扱われるため税関検査もそれほど厳しくないが、あくまでも外交官とは違うので、荷物が多い場合は検査を受けることがある。ポルノ雑誌と判断されるものは持ち込み禁止であり、生鮮食品は農業省の許可が必要となるので要注意である。

(5) 空港内での留意点

子供が黙って荷物を運び、後でチップを請求するトラブルがある。チップを払うつもりがない場合ははっきりと断わることが必要である。

空港内でカートを使う場合は1台につき1万レイが必要である。空港内の銀行では市内より交換レートが悪いため、必要最小限の交換にとどめること。

(6) 空港からの主な交通手段

空港バスとタクシーがある。空港バスはブカレスト市内まで、1時間に数本運行している。美しい車両で乗車料金は安く、98年2月現在6,000レイである。ただし、券売所に係員が不在であったり、降車後の問題もあるので初めての人にはあまり薦められない。

タクシーの値段は交渉により値段を決めてから乗車すること。初めての人は20ドル以下であれば折り合いをつけるのが無難である。

(7) その他の留意点

該当情報なし。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

出国カードの確認と再入国に必要なビザの有効期限などを確認しておけばなんら問題はない。最近の外貨の持ち出しもそれ程うるさくチェックしていない。また、鉄道などの陸路での出国についても、邦人については入国同様あまりうるさくない。

(2) 出国手続上の留意点

特に留意することはない。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

特別な手続はない。

(2) 車の処分

車の処分が一番難しくトラブルが多い。無税車を購入してる専門家などについては、同様に無税車を購入できる人に売却すれば問題はない。現在のところ、無税車を購入できる資格のない人に売却すると、当初の購入時の価格に輸入税（約 30%）と付加価値税分（約 22%）を掛けた分を支払う必要がある。したがって日本人会や外交団の婦人の集まりなどに買い手募集の広告を出すことが多い。

(3) 家財道具の処分

航空貨物はルフトハンザカーゴを利用する人が多く、海上輸送の場合は神野運送など（TEL:2231413, 2231416 FAX:2231455）を利用している。

ルーマニアで購入したものは自由に輸送できるが、日本などから輸入したものはその際の証明書が必要となる。したがって、手荷物で持ち込んだコンピュータなどはやはり手荷物で持ち帰ることになる。

(4) 住宅の明け渡し

それぞれの契約内容によるが、通常、1ヶ月前までに家主に契約のうちきりを通知する必要がある。たいていの物件はディポジットなしの契約であるが、ディポジットを納めた場合は返却交渉をしなければならない。

(5) 外貨持出し規制

現在、外貨の持出しは上限1万ドルである。ただし、外貨の少ない国であるため、上限額は常に変更される可能性がある。必要分だけを持ち込むことが肝要である。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

日本から輸送する場合は、日本の運送会社が手配したルーマニアの業者が輸入手続きまでの一切を引き受ける。ルーマニアから日本に返送する場合は、現地業者に見積もりを依頼し、その後手続きを経て送付してもらう。主な業者は次のとおりである。

Hobby House ……TEL：210-9531 担当：Mrs.Maria Petrescu (Manager)

Interdean ……TEL：220-1168, 220-4456 担当：Mr.Cristina Borcos

Corstjens ……TEL：240-3702, 240-3703 担当：Mrs.Magda Balint

AGS ……TEL：212-1233 担当：Mr.Gerald Imburchie

(2) 輸入手続

引き取りに際しては身分証明書などの通関にかかる文書の取得が必要となる。大使館員、JICA 駐在員、JICA 専門家および民間会社の駐在員などで各々手続きが異なるので注意すること。

(3) 輸入荷物の受け取り港

海上輸送の場合、オランダ・ロッテルダム港陸揚、以降ドイツ、ハンガリーなど経由で陸送、またはルーマニア・コンスタンツァ港陸揚、以降国内陸送。

航空輸送の場合、西ヨーロッパ主要都市経由、ルーマニア・オトベニ空港着。

以上が一般的な経路である。

(4) 家財道具の購入

ブカレスト市内には数多くの販売店があり、国産品、輸入品の家具をはじめ生活用品が揃っている。JICA 専門家が外国から輸入する場合は、所属先から必要な公文書（身分および身元を証明する書類、R/D の現地語訳など）を作成してもらい、免税手続きを行う。その人の身分でやり方が異なるので注意すること。

15-2 自動車

(1) 一般状況

当地では日本車を含む先進国メーカーのヨーロッパ仕様車を購入できるので、あえて輸入する必要はない。

(2) 輸入手続

日本からの輸入は、排気量などがヨーロッパ仕様と異なる上、所要時間、費用、通関手続きに費やす労力（関税関連法などが頻繁に追加、修正されるため手続き方法が定まらない状況にある）を考えると、JICA 専門家の身分では避けたほうがよい。事情により輸入する場合は、その人の身分や購入先によって手続きが異なるためディーラーなどに照会すること。

(3) 任国での購入

代理店に注文して購入する。日本車は、ブルガリアのルセ市にあるフリーゾーンに在庫があれば比較的早く入手できるが、日本あるいは他国の生産拠点から取り寄せる場合は3ヶ月から半年ほどかかる。

ドイツ車をはじめ西欧北欧車については、注文から1ヶ月程度で入手できる。

(4) 自動車登録

JICA 専門家と JICA 駐在員では、免税手続き、車輛登録およびナンバープレート取得などの手続きが異なる。各々現地で購入先ディーラーあるいは所属先（派遣先）に問い合わせること。

JICA 専門家は一般外国人用ナンバープレートになり、最低1年ごと（ビザの有効期間によって異なる）に更新しなければならないが、法律の変更が頻繁であるため、その都度、警察に確認する必要がある。

(5) 免許証取得

日本で取得した国際免許証を使用できる。当地での取得方法は当地で確認すること。

(6) 保険、税金

強制保険は車輛登録およびナンバープレート更新の際、ルーマニアの「Asigrom」で手続きを行う。任意保険は西欧系資本の保険会社があるのでそれらを利用する。JICA 専門家などが契約している保険の掛け金は、およそ車輛価格の6～10%である。

事故の場合は、必ず警察の事故証明を取り付けてから保険会社に連絡し、事後処理を行う。

16. 社交

16-1 風俗習慣

ルーマニア独自の習慣はあるが、基本的には西欧スタイルを遵守すれば問題はない。また、ある程度は日本的な習慣であると説明すれば納得してもらえる場合が多い。

民族・言語はラテン系であるものの、長い共産主義時代の影響か、人との付き合いに消極的な面がみうけられる。一方、金曜日のパーティーなどは夜中の12時を過ぎても終わらないなど、邦人が面食らう場面もある。

16-2 パーティーでの留意点

特にルーマニア独特の留意点はない。常識を持って対応すればよい。

16-3 来客時の留意点

前項と同じ。

16-4 訪問時の留意点

前項と同じ。

16-5 禁止されている言動

前項と同じ。

17. 任国官公庁

主要政府機関は次のとおりである。

The Romanian Government

所在地：71201 Bucharest, Piata Victoriei 1

電話：1-614-3400

F A X：1-222-5814

Ministry of Finance

所在地：70663 Bucharest, Str. Apolodor 17

電話：1-410-3400

F A X：1-312-2077

Ministry of Agriculture & Food

所在地：70312 Bucharest, Bd. Carol I 24

電話：1-614-4020

F A X：1-613-0322

Ministry of Commerce

所在地：70633 Bucharest, Str. Apolodor 17

電話：1-410-7287

F A X：1-312-3342

Ministry of Foreign Affairs

所在地：71274 Bucharest, Al. Modorogan 14

電話：1-212-2060

F A X：1-312-7589

Ministry of Industry

所在地：Bucharest, Vitoriei Square 152

電話：1-650-5020

F A X：1-312-0513

18. 在外日本関係機関など

日本大使館

所在地：Bucharest, Str. Polona No4, Sector 1,

電 話：40-1-2100790, 2100791, 2100792

F A X：40-1-2100272

I E T R O

所在地：Bucharest, I. BC. MODERN 44-46, Republicit Blvd., 5Fl, Sector 2

電 話：40-1-2509601, 2509602

F A X：40-1-2509600

19. 地方都市

現在のところ地方都市に在住の長期専門家はいない。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する専門家などの JICA 関係者が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家などの JICA 関係者は、技術協力協定などの国際約束に基づいて派遣されておりますので赴任国で課せられる税金が免除されることがあります。任国情報はこうした関係者を対象として作成されておりますので、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

- 1.バングラデシュ
- 2.ブータン
- 3.ブルネイ
- 4.カンボディア
- 5.中華人民共和国
- 6.インド
- 7.インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
- 8.大韓民国
- 9.ラオス
- 10.マレーシア
- 11.ミャンマー
- 12.ネパール
- 13.パキスタン
- 14.フィリピン
- 15.シンガポール
- 16.スリ・ランカ
- 17.タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
- 18.ヴェトナム
- 19.モンゴル

-----中近東地域-----

- 1.アルジェリア
- 2.バハレーン
- 3.エジプト
- 4.イラン
- 5.ジョルダン
- 6.クウェイト
- 7.モロッコ
- 8.オマーン
- 9.カタール
- 10.サウディ・アラビア
- 11.スーダン
- 12.シリア
- 13.チュニジア
- 14.トルコ (アンカラ、イスタンブール)
- 15.アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、ドバイ)
- 16.イエメン (サナア)

-----太平洋地域-----

- 1.フィジー
- 2.キリバス
- 3.ミクロネシア
- 4.パラオ
- 5.バブア・ニューギニア
- 6.ソロモン諸島
- 7.ヴァヌアツ
- 8.西サモア
- 9.トンガ
- 10.マーシャル諸島

-----欧州地域-----

- 1.カザフスタン
- 2.キルギス
- 3.ポーランド
- 4.タジキスタン
- 5.トルクメニスタン
- 6.ウズベキスタン
- 7.ハンガリー
- 8.ブルガリア
- 9.チェッコ
- 10.ルーマニア

-----アフリカ地域-----

- 1.ベナン
- 2.ブルンディ
- 3.カメルーン
- 4.カーボ・ヴェルデ
- 5.コモロ
- 6.エチオピア
- 7.ガンビア
- 8.ガーナ
- 9.ギニア
- 10.ギニア・ビサオ
- 11.コートジボワール
- 12.ケニア
- 13.リベリア
- 14.マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
- 15.マラウイ
- 16.モーリシアス
- 17.モザンビーク
- 18.ニジェール
- 19.ナイジェリア
- 20.ルワンダ
- 21.サントメ・プリンシペ
- 22.セネガル
- 23.セイシェル
- 24.ソマリア
- 25.タンザニア
- 26.トーゴ
- 27.ザイール
- 28.ザンビア
- 29.ジンバブエ
- 30.スワジランド
- 31.ボツワナ
- 32.エリトリア

-----中南米地域-----

- 1.アルゼンティン
- 2.ボリビア (ラ・パス、サンタクルス)
- 3.ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
- 4.チリ
- 5.コロンビア
- 6.コスタ・リカ
- 7.ドミニカ共和国
- 8.エクアドル
- 9.グレナダ
- 10.グアテマラ
- 11.ホンデュラス
- 12.メキシコ
- 13.パナマ
- 14.パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
- 15.ペルー
- 16.セント・ルシア
- 17.トリニダード・トバゴ
- 18.ウルグアイ
- 19.ヴェネズエラ
- 20.ニカラグア
- 21.ジャマイカ

「任国情報（ルーマニア）1998年版」

平成10年8月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所
〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号
電話 (03)3269-2357

